

甲状腺外科草子 91

朝倉家の足跡：一乗谷から敦賀へ

杉野圭三

越前朝倉家を築いた朝倉孝景 (1428-1481) は応仁の乱では足利義視の西軍に属していたが、文明3年 (1471年) 5月足利義政による越前国守護職補任を受けて東軍側に寝返り、越前一国の支配権を任された。その後、甲斐敏光らと合戦を繰り広げたが、朝倉軍が有利に戦い文明7年12月に越前を平定した。

これらの戦い方により朝倉氏の悪評も多いが、領国の内政では優れた業績があり領民や家臣から慕われ高い評価を受けた。

朝倉一族の治めた北陸地方を訪れたのは、初冬であった。京都までの新幹線から在来線特急「サンダーバード」に乗り換えると、時の流れは急に緩やかとなる。



北の庄城址

柴田勝家像

お市の方

福井駅前には有名な恐竜の像があり、「北の庄城址」には「柴田勝家」や「お市親子」の像もあるが観光客は意外とまばらである。

福井駅から一乗谷までの交通は JR より直通バスの方が便利で博物館前に停留所がある。



一乗谷への風景

一乗谷朝倉氏遺跡博物館

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館内部には発掘された遺跡や朝倉一族の貴重な文書、資料が展示されている。発掘された街並みまでやや距離があり、歩くよりレンタサイクル (電動、500円) 利用が便利である。

せっかくの山沿いの風景をゆっくり楽しみ

ば良いものの、性格なのか自転車を漕ぎ回り超特急で復興遺跡群を見て回った。



発掘遺跡



朝倉始末記

産業、海運から考えれば港近くの「北の庄」付近に本拠地を構えるのが普通で、山間部に城を築くのは防衛意識過剰に感じられた。



復興遺跡周囲

同街並み

織田信長と朝倉・浅井軍との戦いでは敦賀の「金ヶ崎の退き口」が有名である。浅井長政の突然の裏切りで信長は一目散に退却、京都到着時の供回りは僅か10人前後とされる。



金ヶ崎の戦い

金ヶ崎城の麓

敦賀は海運で栄えた交通の要衝で、北陸新幹線延長予定となり有名な気比神社もあるが街の活気はまだ低い。金ヶ崎城は海沿いの小山の上にある。訪れた日は生憎、強風と雨でJR列車も途中で1時間近く停車する悪条件で城址まで歩くのを断念、麓からのみとした。



海を臨む金ヶ崎



伝統ある気比神社

朝倉宗滴の家訓「犬畜生と言われても勝つ」戦をしなかったことは残念なことである。

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2024年2月8日